

表 海外主要国・地域におけるワクチン接種の状況

国	報告事務所	一般状況			邦人への接種状況				水際措置に関連する事項					備考	情報とりまとめ日
		接種開始時期	ワクチンの使用状況（製薬会社別構成比）※使用状況がなければ調達状況	接種の進捗	邦人の接種状況	邦人への接種は義務か任意か	邦人への接種の場合の対象者	費用 現地通貨 (円)	副反応が出た場合の健康被害救済制度の有無	ワクチン接種証明書発行の状況 (デジタルか否か含む)	他国とのワクチン接種証明書共通化の動き	ワクチン証明を入国/入国後の防疫措置の緩和条件とする動き	ワクチン接種と国内活動制限緩和に関する動き		
タイ	バンコク	2月28日	①シノバック（中国）：600万回分を調達済み。さらに800万回分を追加調達予定。 ②アストラゼネカ（英国）：6,100万回分を契約。6月中旬に600万回分を調達予定。王室系の製薬会社サイラム・バイオサイエンスがライセンス生産。6月7日に現地生産された180万回分が保健省に納品。 ③タイ製薬公団（GPO）・マヒドン大学：臨床試験中 ④ジョンソン・エンド・ジョンソン（J&J）：3月25日認可（2022年3月24日までの1年間限定）。500万回分の調達に向けて交渉中。 ⑤チュラロンコン大学：4月に治験 ⑥ファイザー（米国）：500～100万回分の調達交渉中。早ければ7月にも調達の見込み。 ⑦その他：政府は2021年内に1億5,000万回分のワクチン調達を目標。	ワクチンの大規模接種計画を6月7日より開始予定。1日当たり約86万回接種が目標。  (6月3日時点の接種状況) 総接種回数：3,961,589回 1回目接種：2,727,759人 2回目接種：1,233,830人 出所：新型コロナウイルス状況管理センター（CCSA） 参照： <a href="https://www.jetro.go.jp/biznews/2021/05/9e554d891e1c012a.html">https://www.jetro.go.jp/biznews/2021/05/9e554d891e1c012a.html</a>	新型コロナウイルス状況管理センター（CCSA）は5月21日、在タイ外国人のワクチン接種登録について公表。 6月7日より接種を開始予定。  参照： <a href="https://www.jetro.go.jp/biznews/2021/05/9e554d891e1c012a.html">https://www.jetro.go.jp/biznews/2021/05/9e554d891e1c012a.html</a>	任意	タイに居住する全ての接種希望者は、国籍に関係なく、ワクチンの提供を受けることが可能。	不明	国民医療保障事務局（NHSO）が治療を支援。	タイ政府は4月19日、国外に滞航する際にワクチン接種済みであることを証明する「ワクチンパスポート」の導入を発表（紙ベース）。	不明	通常、（1）隔離期間14日間、（2）隔離期間中のPCR検査は2回のところ、ワクチン証明がある場合は以下のとおり緩和。 1. 到着の14日前～3カ月前にワクチン証明を取得し、かつ陰性証明書を所持している場合：（1）隔離期間7日間、（2）PCR検査1回。 2. ワクチン証明を所持、陰性証明書を所持していない場合：（1）隔離期間7日間、（2）PCR検査2回。	国内でのワクチン接種の有無の確認には専用アプリを使用。	私立病院は独自調達でタイ政府より認められている。 タイ商工会議所は民間企業で従業員に100万回分のワクチンを独自調達すると発表。今後さらに1,000万回分のワクチンを購入する意向を示した。4月26日よりワクチン調達の登録を開始。	6月4日
シンガポール	シンガポール	2020/12/30	現在、ファイザーとモデルナのワクチンを使用  ※シンガポール保健省は6月2日、中国製薬大手の科興控股生物技術（シノバック・バイオテック）が開発した新型コロナウイルスワクチンについて、「スペシャル・アクセス・ルート・特別入手経路（SAR）」制度を通じ利用を認めると表明。世界保健機関（WHO）が1日、シノバック製ワクチンの緊急使用リストに加えたことに伴う動き。同省は、地元紙に対しシノバック製のコロナワクチンは国内の接種計画には盛り込まないと説明。また、副反応が出た場合は財政支援制度からは除外するとの見直しを示した。	2021/5/31時点 1回目接種：2,281,154 2回目接種：1,766,497 接種した合計回数：4,047,651  3月25日から45歳以上へワクチン接種対象者を拡大。5月19日以降、40歳以上へ拡大。 また、リー首相演説（5月31日）により、6月中旬より12歳以上の学生に、7月以降には39歳以下の成人に対象拡大との方針を示した。	日本人を含む外国人の長期滞在ビザ保有者、永住権者は接種対象。 *JCCI・JETROによる「新型コロナウイルスへの対応・対策」アンケート（4月5日実施、4月12日集計、回答件数：232件）によると、日系企業の駐在員のワクチン接種方針は「任意」が56%、「推奨」が30%、「方針を定めていない」が15%。	任意	長期滞在ビザ保有者（就労ビザ含む）、永住権者	無料	有 〔新型コロナ・ワクチン障害資金援助プログラム（VIFAP）：ワクチン接種の副反応による死亡・恒久的な障害に対し22万 ・濃厚接触者の追跡アプリ「トレーストックゲザー」で、ワクチンの接種状況を明示。 ・国民（永住権者含む）用の健康情報アプリ「ヘルスハブ」で、ワクチン接種状況の把握と接種証明書のPDFでの発行を可能に。	豪州、ニュージーランド、中国、香港、マレーシアとそれぞれ、ワクチン接種証明書の相互認証に向け協議中。	オン・イェクン運輸相は4月28日、新型コロナウイルスの感染者数の少ない国・地域からのワクチン接種済みの渡航者について、隔離の免除を検討していることを明らかにした。	左記参照	政府のワクチン登録、情報サイト ( <a href="https://www.vaccine.gov.sg/">https://www.vaccine.gov.sg/</a> )	6月7日	
マレーシア	クアラルンプール	2021年2月26日	①ファイザー 使用中。 ②シノバック 使用中。 ③アストラゼネカ 使用中。132万回分を調達済。 ④ジョンソン・エンド・ジョンソン 承認審査中。  ※政府の調達計画（3月12時点） ファイザー：3,200万回分 アストラゼネカ：1,280万回分 シノバック：1,200万回分 カンシノ：350万回分 スプートニク：640万回分	1回目接種：187万人 2回目接種：105万人 (5月31日時点) <国家ワクチン接種計画> 2月26日（第1フェーズ）医療関係者の接種開始。 4月19日（第2フェーズ）60歳以上の高齢者、活習慣病患者などの重症化リスク者への接種開始。  上記以外に、5月よりアストラゼネカのワクチンについて、先着予約順での接種プログラムを実施（6月3日時点で2回の予約受付）。 セランゴール州では、従業員へのワクチン接種に関心のあるセランゴールに所在する雇用主に対して、州独自のワクチン接種プログラム「Selgate Covid-19 Vaccination Programme」へのオンライン登録を開始。費用は雇用者負担となる。	接種対象。 順次接種通知を受けている。	任意	マレーシア在住者を対象	無償	重篤な副反応が発生し、長期の入院治療が必要となった場合：50,000リンギット 永久的な障害または死亡が発生した場合：500,000リンギット	ジョホールからシンガポールに越境通勤するマレーシア人に対してワクチンの電子証明書を導入し隔離を免除にする予定。	シンガポールとの間でワクチン接種証明書の相互認証することで一致（3月23日）	左記参照	不明	●政府は民間の医療機関によるワクチンの調達を容認する姿勢（3月30日）	6月3日
インドネシア	ジャカルタ	<①公的接種> 2021年1月13日  <②民間接種> 「相互扶助ワクチン接種プログラム」 2021年5月18日（一部企業） 2021年5月27日（本開始）	<①公的接種> 1回目接種：1,677万人 2回目接種：1,085万人 (6月2日時点) 1月13日から医療関係者の接種開始 2月17日から公務員と60歳以上の高齢者への接種開始 2月24日から教員と報道関係者への接種開始 6月19日から感染危険度が高い地域の住民、低所得者、障害者など社会的弱者への接種を開始。 なお、ワクチン接種は国民の義務。 <②民間接種> 接種人数不明、2万8,400社が接種登録済み（5月31日時点） ※民間接種の「相互扶助ワクチン接種プログラム」は、インドネシア商工会議所（KADIN）が窓口を務める政府公認の自主接種プログラム（有料）。先着順で企業単位の接種を受け付け（5月21日申し込み締め切り済）。	①公的接種：対象外 ②民間接種：原則として対象外(備考参照)	任意	②民間接種：各国代表機関、非営利国際機関の従業員 ※ただし既に申込締切。 ※民間企業等の駐在員とその家族は現時点で対象外。	②民間接種 最高43万9,570ルピア（約3,341円、ワクチン料金および接種費） ※企業単位で申込、事業主が負担する。	不明	不明	不明	不明	不明	●現地在住の外国人を「相互扶助ワクチン接種プログラム」の接種対象にする方向で政府内で議論中（5月3日、現地報道）。 ●在インドネシア日本国大使館ウェブページによると、相互扶助ワクチン接種プログラムは外国人も対象としており、接種例も出てきているとのこと（6月2日）。 <a href="https://www.id.emb-japan.go.jp/oshirase21_75.html">https://www.id.emb-japan.go.jp/oshirase21_75.html</a>	6月3日	
フィリピン	マニラ	2021年3月1日	5月30日時点でのワクチン調達状況は以下（すでにフィリピンへ納入が完了したものをのみを記載）。 ①シノバック 550万回分 ②アストラゼネカ（COVAXファシリティア）255万6,000回分 ③スプートニクV 8万回 ④ファイザー 19万3,050回分	1回目接種：397万4,350回分 2回目接種：120万6,371回分 (6月2日時点。接種対象は医療関係者（A1）、高齢者（A2）、併存疾患を有する人（A3）） ※6月7日より、民間・政府機関にて重要な部門に勤務する非医療関係者や現場従事者（A4）への接種を開始する予定。	・フィリピン政府は、合法的な在留資格を持つ外国人（nationals who have legal residency status in the Philippines）について、フィリピンのワクチン接種制度の下でワクチンの接種を受けられる対象とし、希望者は地方行政機関（LGUs）での登録が必要。 ・4月7日、フィリピン日本人商工会議所とマニラ日本人会は、在フィリピン日本大使館に対して、日本政府が調達したワクチンをフィリピンで接種できるよう要望書を提出した。	任意	合法的な在留資格を持つ外国人（nationals who have legal residency status in the Philippines）	無料	不明	n/a	n/a	n/a	n/a	海外製薬会社からフィリピンへのワクチン供給は、第3四半期（7～9月）に本格化するとフィリピン政府は見込む。	6月3日

国	報告事務所	一般状況			邦人への接種状況				水際措置に関連する事項				備考	情報とりまとめ日	
		接種開始時期	ワクチンの使用状況（製薬会社別構成比）※使用状況がなければ調達状況	接種の進捗	邦人の接種状況	邦人への接種は義務か任意か	邦人への接種の場合の対象者	費用 現地通貨 (円)	副反応が出た場合の健康被害救済制度の有無	ワクチン接種証明書発行の状況（デジタルか否か含む）	他国とのワクチン接種証明書共通化の動き	ワクチン証明を入手／入国後の防疫措置の緩和条件とする動き			ワクチン接種と国内活動制限緩和に関する動き
ベトナム	ホーチミン	3月8日より医療従事者等を対象に開始。	1. 輸入ワクチン (1) アストラゼネカ： ①ベトナム・ワクチン社が3,000万回分の購入契約済み。2月24日に第1弾（11万7,600回分）が到着。 ②COVAXファシリティにより3,890万回分を調達予定。第1弾（81万1,200回分）が4月1日に到着。5月16日に第2弾（168万2,400回分）が到着。 (2) ファイザー： 3,100万回分の購入を契約済み。 (3) SPUTNIK V： 2021年以内に2,000万回分の調達で合意。 (5) シノファーム： 6月3日に緊急使用承認。 (4) その他： モデルナ、ジョンソン・エンド・ジョンソンとも交渉。 2. 国産ワクチン 現在、4種類のワクチン開発が進行中。このうち、最も先行する「Nano Covax」は6月上旬に第三相臨床試験を開始予定。	・政府は2021年2月9日付政府決議1210/QD-BYTにより、COVAXファシリティ提供ワクチンの受領、保管、配送および利用について決定。  ・政府は2021年2月26日付政府議決21/NQ-CPIにより、ワクチンの購入および使用について決定。  ・ワクチン接種状況（5/31時点）： 総接種回数110万2,099回。うち、3万602人が2回接種。（出所）保健省	現時点で、邦人含む居住外国人のワクチン接種に関して、政府から公式の発表はされていない。				政府は4月16日付議決45/NQ-CPにより、保健省に対して、ワクチン・パスポートの方針を早期に確定し、対象・国ごとの展開方法について研究するよう指示。	不明	不明	不明	不明	6月4日	
オーストラリア	シドニー	2021年2月21日から	政府は2021年内に1億5,000万回分のワクチン調達を目標。 ファイザー、アストラゼネカのワクチンを暫定的に承認。  2021年6月5日時点 接種をした合計回数：5,016,352	連邦政府は4月8日、英アストラゼネカ製ワクチンの接種について、欧州で接種後に血栓を発症する報告が相次いだことを受け、50歳以上に使用を限定する方針を発表した。  2021年6月5日時点 接種をした合計回数：5,016,352	居住者は無料で接種可能。2月より順次接種	任意	ビザの種類に限らず、全てのオーストラリア居住者が接種を受けることが可能	無料	不明	不明	不明	不明	外国人旅行者に対する入国制限は、ワクチン接種状況に応じた緩和はなし。  オーストラリアに旅行する乗客は、出発予定時刻の72時間以内に検査を受け、チェックイン時に検査結果が陰性であるという証拠を提示する必要がある。  海外からオーストラリアに到着する人は原則14日間隔離され、各州の旅行制限に従う必要がある。	出所：オーストラリア保健省 ( <a href="https://www.health.gov.au/initiatives-and-programs/covid-19-vaccines/getting-vaccinated-for-covid-19">https://www.health.gov.au/initiatives-and-programs/covid-19-vaccines/getting-vaccinated-for-covid-19</a> )、首相官邸 ( <a href="https://www.pm.gov.au/media/ast-razeneca-covid-19-vaccine">https://www.pm.gov.au/media/ast-razeneca-covid-19-vaccine</a> )、 ( <a href="https://www.pm.gov.au/media/press-conference-australian-parliament-house-act-09april21">https://www.pm.gov.au/media/press-conference-australian-parliament-house-act-09april21</a> )	6月7日
ニュージーランド	シドニー	2021年2月18日から	2021年5月21日時点 調達（予定含む） ①ファイザー：1,000万回分 現在、使用が暫定的に承認されている唯一のワクチンであり、接種するワクチンの種類を選択する事が出来ない。  ②ヤンセン：500万回分 ③Novavax：1,072万回分 ④アストラゼネカ：760万回分 ※①、③、④は2回接種する必要がある。 ※②については1回接種で有効だろうとの認識。	2021年6月2日時点 1回目接種：432,509 2回目接種：235,606 接種をした合計回数：668,115	居住者は無料で接種可能。2月より順次接種	任意	16歳以上の全てのニュージーランド在住者が、ビザや市民権に関係なく、無料で接種を受けることが可能	無料	不明	不明	不明	不明	外国人旅行者に対する入国制限は、ワクチン接種状況に応じた緩和はなし。  NZに旅行する乗客は、出発予定時刻の72時間以内に検査を受け、チェックイン時に検査結果が陰性であるという証拠を提示する必要がある。  海外からNZに到着する人は原則14日間隔離される。	出所：NZ保健省 ( <a href="https://www.health.govt.nz/our-work/diseases-and-conditions/covid-19-novel-coronavirus/covid-19-vaccines">https://www.health.govt.nz/our-work/diseases-and-conditions/covid-19-novel-coronavirus/covid-19-vaccines</a> )	6月7日
インド	ニューデリー	1回目：2021年1月16日 2回目：2021年2月13日	6月6日日本時間15時時点の接種回数ベースで、以下のとおり。 ①Astrazeneca（英）・Serum Institute of India（印）（Covishield）：201,247,405本（88.44%） ②Bharat Biotech（印）（Covaxin）：26,274,704本（11.55%） ③The Gamaleya National Center of Epidemiology and Microbiology（露）・Dr Reddy's Laboratories（輸入販売）（印）*（Sputnik V）：16,337（0.01%）  *今後インド企業6社（Shilpa Biologicals, Hetero Biopharma, Virchow Biotech, Panacea Biotec, Stelis Biopharma、Gland Pharma）が国内生産予定。	①1月16日に医療従事者やフロントワーカーを対象に接種が開始。 ②3月1日以降は60歳以上及び45～59歳で疾患（20種を指定）を持つ人も対象に。 ③4月1日以降は45歳以上の人が対象に変更。 ④5月1日以降は18歳以上の人が対象に変更。  5月27日、高齢者や障がい者を主な対象に、医療施設以外を接種会場として接種を実施することを認めるガイドラインを発表。  6月6日のインド時間7時時点の接種者数は、1回目の接種を終えた人数が、1億8,513万8,502人、2回目の接種を終えた人数が、4,618万3,915人、延べ2億3,132万2,417件。	●在インド日本国大使館は4月7日時点で、「インド国内における外国人（日本人含む）の接種に関し、4月1日以降、インド人と同様に45歳以上は接種対象との説明を受けている」と発表。  ●「CoWIN」でのワクチン接種予約では、医療機関ごとにどのワクチンを接種するのの表記あり。多くの邦人がCovishieldを接種しているが、Covaxinを接種した例も聞く。どちらも副反応の有無、有る場合の強弱は次第。	任意	未発表であるが、実習年齢以外の制限はないため年齢制限さえクリアできれば誰でも接種可能。  （一般への案内） <4/30まで> ・政府医療施設での接種は完全無料、民間病院は1回最大250ルピーを負担。  <5月1日以降> ・接種対象者の拡大（18歳以上）に併せてワクチンの供給を自由化。国内産ワクチンの50%まで中央政府以外（州政府、病院等）への販売を許可。 ・メーカー2社の販売価格は以下。 >SII（Covishield） 州政府：400ルピー、民間病院：600ルピー >Bharat Biotech（Covaxin） 州政府：600ルピー、民間病院：1,200ルピー  ・接種費用は、州政府病院では無料、民間病院ではCovishieldは800～1,000ルピー/回、Covaxinは1,200～1,400ルピー/回が多いが、州によっては両ワクチンとも250ルピーで接種可能な民間病院もある。	「CoWIN」（ウェブサイト/アプリ）からダウンロード可能。	不明	不明	不明	不明	<出所> ・接種の進捗：インド保健・家庭福祉省ホームページおよび「インドにおける新型コロナウイルスに関する情報提供」（4月22日付Vol.32以降）（在インド日本国大使館） ・邦人の接種状況（1つ目●）：「インドにおける新型コロナウイルスに関する情報提供」（4月7日付Vol.31以降）（在インド日本国大使館） ・副反応が出た場合の健康被害救済制度の有無：「インドにおける新型コロナウイルスに関する情報提供」（4月7日付Vol.31以降）（在インド日本国大使館） ・費用：インド保健・家庭福祉省発表、各社発表、インドメディア	6月6日	
中国	北京	中国各地で地域差があるが2021年1月初旬以降、各地政府の通達により一般向けの接種開始。 ※公務員や航空会社、物流会社、生鮮食品部門など重点接種対象に対してはそれ以前から接種を実施。	1) 中国医薬集団（シノファーム）傘下の中国生物が開発した不活性ワクチン、2) 科興控股生物技術（シノバック・バイオテック）が開発した不活性ワクチン、3) 康希諾生物（カンシンノ・バイオロジクス）が開発した新型コロナウイルスワクチン（ウイルスベクターワクチン）、4) 国薬集団（シノファーム）中国生物武漢生物制品研究所が開発した不活化ワクチン	5月30日までの新型コロナワクチンの累計接種件数はのべ6億3,917万2,000件（国家衛生健康委員会）。	上海市では、2021年3月29日より外国籍の適齢者をワクチン接種対象範囲とする旨が発表され、その後北京市、天津市、広東省、重慶市等でも外国籍者が接種対象に組み込まれた。こうした省・市では、外国籍者への接種が順次進んでいる。	任意	北京市、天津市、上海市、広東省、重慶市等では18歳以上の外国籍人員がワクチン接種対象に含まれている。 ※省や市によって、外国籍人員をワクチン接種対象に含めているか否かは異なる。	省や市によって異なる。また、社会保険加入の有無により、費用負担が異なる場合がある。 ※北京市では、市の社会保障医療保険に加入している者は、接種会場で北京市の医療保険加入証明書を提示することにより、無料で接種可能。未加入の場合の接種費用は1回当たり93.5元となっている（北京市外弁）。	不明。	3月8日から、ワクチン接種証明書の発行を開始（スマートフォンのアプリを使ったデジタル版）。	韓国等とワクチン接種証明書の相互認証の導入について協議中。	3月15日から、中国製ワクチンを接種済みで、ワクチン接種証明を有する外国籍者の訪中ビザ申請手続きを簡素化（日本や/キスタン、フィリピン、タイ等）	ワクチン接種の有無にかかわらず、中・高リスク地区を除けば国内の移動については原則として制限がない。	3月30日の外交部発表によると、中国は80カ国にワクチン支援を提供し、40カ国にワクチンを輸出している。	6月4日
韓国	ソウル	2021年2月26日	ファイザー：431万6,699件（43.7%） アストラゼネカ：556万1,770件（56.3%） ※6月7日0時時点の使用状況、2次接種分も含む。 ※その他、モデルナ、ヤンセンファーマのワクチンが承認済み。6月から接種が行われる予定。	人口（注）当たりの接種率 1次接種：14.8% 2次接種：4.4% ※2020年12月の住民登録件数基準	3か月（90日）以上滞在している外国人は滞在資格を問わず接種対象者に含まれ、接種の順番については韓国人と同様。	任意	滞在期間が3か月（90日）未満の短期滞在者を除く全ての邦人（外国人）。	無料	有り： ・診療費（本人負担金）および定額着病費（入院治療に限定し一人当たり5万ウォン） ・障害者への一時負担金 ・死亡時の一時補償金及び葬儀費用	政府サイト内から印刷もしくはPDFで証明書を発行。 4月15日からはモバイルアプリを活用した電子証明書を発行。	不明。	韓国政府は、WHOが緊急使用を承認したワクチンを接種した場合、入国後の隔離措置を免除する方針を検討していると発表。	・6月1日以降、ワクチン接種後14日間が経過した人は、8人以内とされている家族の集まりの人数制限から除外される。 ・7月第1週から12月までの間、1回目のワクチン接種者およびワクチン接種完了者は、屋外でのマスク着用義務が免除される予定。屋内は引き続きマスク着用義務を継続する。 ・12月以降、ワクチン接種完了者の屋内でのマスク着用義務を免除する方向で検討中。	6月7日	

国	報告事務所	一般状況			邦人への接種状況			水際措置に関連する事項				備考	情報 とりまとめ日		
		接種開始時期	ワクチンの使用状況（製薬会社別構成比） ※使用状況がなければ調達状況	接種の進捗	邦人の接種状況	邦人への接種 は義務か任意 か	邦人への接種の場合の 対象者	費用 現地通貨 （円）	副反応が出た場合の健康被害救済制度の有無	ワクチン接種証明書発行の状況 （デジタルか否か含む）	他国とのワクチン接種証明書共通化 の動き			ワクチン証明を入手／入手後の防 疫措置の緩和条件とする動き	ワクチン接種と国内活動制限緩和に関する 動き
EU		2020年12月27日	欧州委員会による調達契約の状況は以下のとおり（6月3日時点）： <条件付き販売承認済み> ①ファイザー・BioNTech（米・独）：24億回分 ②モデルナ（米）：4億6,000万回分 ③アストラゼネカ（英）：4億回分 ④ジョンソン・エンド・ジョンソン（ヤンセン）（米・白）：4億回分 <臨床試験段階> ⑤キュアバック（独）：4億500万回分 ⑥グラクソ・スミスクライン・サノフィ（英・仏）：3億回分  ※上記の他、ノババックス（米）：2億回分、ノルネバ（仏）：6,000万回分の調達契約に向けて交渉中。	初回接種：47.0% 接種完了：22.9% ※18歳以上を対象とした割合（EU27カ国） （6月4日時点、ECDC）	—	—	—	—	—	欧州委員会は3月17日、EUレベルでの枠組み「デジタル・グリーン証明書」を提案。5月20日に欧州議会とEU理事会が合意し、名称を「デジタルCOVID証明書」に変更。7月1日から本格運用が開始される予定。QRコードに情報を付し、デジタル版と紙の両方を発行する。①ワクチン接種証明、②検査結果証明、③回復証明の3種類で、各加盟国が発行する。 ※ワクチン接種証明はEUが承認したワクチン以外に、WHOや加盟国が独自に承認したワクチンにも発行するかは各加盟国が判断。	各加盟国が証明書を発行し、EU共通のデジタルプラットフォーム「EUゲートウェイ」により認証。EU全域で有効な証明書となる。EUは各加盟国で互換性のあるシステム開発のため、仕様ガイドラインを提示済み。「EUゲートウェイ」は6月1日から供用を開始し、既にドイツ、スペインなど9カ国が接続済。当該9カ国ではEUデジタルCOVID証明書の発行を開始している。  EUと同等性のある証明書を発行する域外国については、相互承認を行う方向。	5月20日付EU理事会勧告にて、EU域外からの不要不急の入域について、ワクチン接種完了者への入域制限を緩和することを決定。加盟国がワクチン接種者への検査や検査措置を免除する場合、EUが承認したワクチンの接種完了から14日以上経過した渡航者を対象とすべきと勧告。WHOが承認したワクチン接種者も免除の対象にすることができる。	—	接種者数は以下参照： <a href="https://vaccinetracker.ecdc.europa.eu/public/extensions/COVID-19/vaccine-tracker.html#uptake-tab">https://vaccinetracker.ecdc.europa.eu/public/extensions/COVID-19/vaccine-tracker.html#uptake-tab</a>	2021年6月7日
英国	ロンドン	2020年12月8日	4月28日時点で以下の3種。構成比は不明。 ①ファイザー・BioNTech（米・独）：12月8日接種開始 ②アストラゼネカ（英）：1月4日接種開始 ③モデルナ（米）：4月7日接種開始 同日時点での調達契約の状況は以下のとおり。 <接種開始済み> ①ファイザー・BioNTech（米・独）：1億回分 ②アストラゼネカ（英）：1億回分 ③モデルナ（米）：1,700万回分 <承認済み> ④ジョンソン・エンド・ジョンソン（ヤンセン）（米・白）：2,000万回分 <臨床試験段階> ⑤ノババックス・フジファルムバイオサイエンス/バイオテクノロジー・グラクソ・スミスクライン（米・日・英）：6,000万回分 ⑥グラクソ・スミスクライン・サノフィ（英・仏）：6,000万回分 ⑦ノルネバ（仏）：1億回分 ⑧キュアバック（独）：5,000万回分 （①～⑧計5億700万回分）（英国政府）	1回目接種を行った割合：74.7% 2回目接種を行った割合：49.2% ※18歳以上の人口（推計）で割った数値をジェトロで算出。 （6月1日時点、英国政府）	政府の接種計画に順じて接種している邦人が多数	任意だが、政府は国籍を問わず18歳以上の原則全ての住民に接種を強く推奨	n/a（任意） ※18歳以上	無料	深刻な障害（60%以上）が出た場合のみ、既存のワクチン関連損害賠償のスキームでカバー。	2回目的ワクチン接種完了者はアプリもしくは紙媒体で取得可能（イングランドの場合）。	入国時の証明については、相互承認に向け他国や国際機関と協調。	検討中 （現在入国の条件としている72時間以内の陰性証明書の代わりとして活用する案。）	検討中 （劇場、ナイトクラブ、大規模イベントなどへの入場時の活用、社会的距離の制限緩和に活用する案。）	接種者数は以下参照 <a href="https://coronavirus.data.gov.uk/details/vaccinations">https://coronavirus.data.gov.uk/details/vaccinations</a> 18歳以上の人口は以下参照 <a href="https://www.gov.uk/government/publications/uk-covid-19-vaccines-delivery-plan/uk-covid-19-vaccines-delivery-plan#prioritisation-1">https://www.gov.uk/government/publications/uk-covid-19-vaccines-delivery-plan/uk-covid-19-vaccines-delivery-plan#prioritisation-1</a>	2021年6月3日
フランス	パリ	2020年12月27日	納入（デリバリー）ベースでの構成比は以下の通り（5月30日時点、フランス連帯・保健省） ①ファイザー・BioNTech（米・独）：2,726万7,340回分（68.1%） ②モデルナ（米）：384万7,200回分（9.6%） ③アストラゼネカ（英）：811万9,100回分（20.3%） ④ジョンソン・エンド・ジョンソン（ヤンセン）（米・白）：81万7,200回分（2.0%）	初回接種：48.2% 接種完了：20.9% ※18歳以上を対象とした割合（6月4日時点、ECDC）	5月10日から50歳以上が接種可能となり駐在員を含め多くの接種実績を確認。なお、5月12日から年齢に関係なく翌日に限り予約が可能となり、5月31日から18歳以上で翌日に限らず事前の予約が可能となった。さらに、6月15日からは12～17歳も接種が可能となる予定。	任意	n/a（任意）	デクレ（政令）で無料と規定（フランスの社会保険に加入していない駐在員の接種も無料であることを確認済み。）	有（既存のワクチン関連損害賠償スキームの範囲内）	当初は紙媒体の証明書発行のみであったが、コロナアプリ（TousAntiCovid）に取り込み可能なバーコード付きの紙媒体の証明書が発行されている。6月9日からはコロナアプリ（TousAntiCovid）で取得可能なフランス独自のシステム（衛生バス）が開始される予定。紙媒体の証明書も引き続き有効。	フランス独自のシステム（衛生バス）を、EUゲートウェイに接続し、近くEUレベルでの運用を目指す。	検討中	6月9日から再開される入場者1,000人を超える劇場、会議場、大型コンサート、スタジアムなどでは衛生バスの提示により参加が可能となる予定。	ワクチン接種関連情報は、連帯・保健省ウェブサイト参照。 <a href="https://solidarites-sante.gouv.fr/grands-dossiers/vaccin-covid-19/">https://solidarites-sante.gouv.fr/grands-dossiers/vaccin-covid-19/</a>	2021年6月7日
ドイツ	ベルリン	2020年12月27日	接種回数ベースでの構成比は以下の通り（6月2日時点、ロベルト・コッホ研究所） ①ファイザー・BioNTech（米・独）：3,896万1,581回（70.2%） ②アストラゼネカ（英）：1,019万9,350回（18.4%） ③モデルナ（米）：532万5,700回（9.6%） ④ジョンソン・エンド・ジョンソン（ヤンセン）（米・白）：101万2,199回（1.8%） ※④は1度の接種で接種完了。	初回接種：51.5% 接種完了：21.1% ※18歳以上を対象とした割合（6月4日時点、ECDC）	接種人数については不明。ドイツの公的医療保険若しくは私的医療保険に加入している、または、住所を有するが日常的に滞在しているといった条件に該当する人は全て、国籍に関わらずワクチン接種を受ける権利あり。ドイツ政府は、新型コロナウイルスに罹患した場合の重症化リスクや職業上の感染リスク等をもとに定めた優先順位が高いグループから、ワクチン接種を進めていたが、6月7日より優先順位制度が解除され全希望者が接種可能になるとともに、接種可能年齢も12歳以上に引き下げ。	任意	n/a（任意）	無料	有	デジタル証明書は5月27日に一部地域で試験運用開始。アプリ（CovPass）上で発行される。申請すれば紙ベースの証明書の取得も引き続き可能。	ドイツ独自のシステムを開発。同システムのEUゲートウェイへの接続を予定。	【入国時の陰性証明】 ワクチン接種証明書または回復証明書の所持者は入国時の陰性証明書提示義務を免除。  ※変異株蔓延地域からの入国には不適用。  【入国後の隔離義務】 陰性証明書、ワクチン接種証明書、回復証明書の所持者は、入国後の隔離義務の早期終了が可能。  ※ハイリスク地域、変異株蔓延地域からの入国には不適用。	ワクチン接種証明書または回復証明書の所持者は、小売店や理・美容院等の利用時の陰性証明書提示義務を免除。夜間外出制限、私的な集まりの人数制限なども免除。	接種に関する情報は、以下の在ドイツ日本国大使館のウェブサイトにも掲載。 <a href="https://www.de-emb-japan.go.jp/itpr_ja/konsular_coronavirus200313-1.html#yobosesshu">https://www.de-emb-japan.go.jp/itpr_ja/konsular_coronavirus200313-1.html#yobosesshu</a>	2021年6月7日
イタリア	ミラノ	2020年12月31日	納入ベースの構成比は以下の通り（6月2日時点、保健省） ①ファイザー・BioNTech（米・独）：2,757万6,022回分（69.0%） ②アストラゼネカ（英）：373万5,557回分（9.3%） ③モデルナ（米）：742万580回分（18.6%） ④ジョンソン・エンド・ジョンソン（ヤンセン）（米・白）：122万6,250回分（3.1%）	初回接種：47.7% 接種完了：24.5% ※18歳以上を対象とした割合（6月4日時点、ECDC）	接種人数については不明。イタリアでの接種は、高齢者、基礎疾患がある人、医療福祉事業従事者などを優先グループとし、その後若年層に順次拡大している。接種スピードは地域差があるが、例えばミラノのあるロンバルディア州では、5月27日より30代を対象とした接種予約受付が始まった。邦人も各自治体のルールに準じていると思われる。	任意	n/a（任意）	無料（国民皆保険制度加入者の場合）、非加入者の扱いは不明。	無	ワクチン接種証明書（4月23日施行の暫定措置令で導入した「グリーン証明書」に含まれる）は、医療施設または地域医療サービスが、紙またはデジタル媒体で発行。	EUとの間で「EUデジタルCOVID証明書」を導入予定。また、EU域外国で発行した証明書を同等と認める旨、4月23日施行の暫定措置令で定めている。	ワクチン接種の有無による入国・防疫措置の差別化は現状なし。	4月23日施行の暫定措置令にて、ワクチン接種に関する証明書を含む「グリーン証明書」の所持者には、州あるいは自治体をまたぐ移動の制限を緩和（制限措置が最も厳しいレッドゾーンおよび2番目に厳しいオレンジゾーンへ出入り可）。	ワクチンの使用状況（製薬会社別構成比）はイタリア政府ウェブサイト参照。 <a href="https://www.governo.it/it/cscovid19/report-vaccini/">https://www.governo.it/it/cscovid19/report-vaccini/</a>  グリーン証明書については保健省ウェブサイト参照。 <a href="https://www.salute.gov.it/portale/nuovocoronavirus/dettaglioFaqNuovoCoronavirus.jsp?lingua=italiano&amp;id=264">https://www.salute.gov.it/portale/nuovocoronavirus/dettaglioFaqNuovoCoronavirus.jsp?lingua=italiano&amp;id=264</a>	2021年6月7日

国	報告事務所	一般状況			邦人への接種状況				水際措置に関連する事項					備考	情報 とりまとめ日
		接種開始時期	ワクチンの使用状況（製薬会社別構成比） ※使用状況がなければ調達状況	接種の進捗	邦人の接種状況	邦人への接種は義務か任意か	邦人への接種の場合の対象者	費用 現地通貨 (円)	副反応が出た場合の健康被害救済制度の有無	ワクチン接種証明書発行の状況 (デジタルか否か含む)	他国とのワクチン接種証明書共通化の動き	ワクチン証明を入手／入手後の防疫措置の緩和条件とする動き	ワクチン接種と国内活動制限緩和に関する動き		
スペイン	マドリッド	2020年12月27日	接種回数ベース/調達数ベースは以下の通り（6月2日時点、保健省）。 ①ファイザー・BioNTech（米・独）：1,938万614（70.2%）/2,022万3,255回分（67.1%） ②アストラゼネカ（英）：519万6,053（18.8%）/597万5,400回分（19.8%） ③モデルナ（米）：253万2,436（9.2%）/301万3,500回分（10.0%） ④ジョンソン・エンド・ジョンソン（ヤンセン）（米・白）：498,144（1.8%）/93万9,300回分（3.1%） 合計：2,760万7,247/3,015万1,455回分	初回接種：47.3% 接種完了：24.8% ※18歳以上を対象とした割合（6月4日時点、ECDC）	接種人数については不明。居住者・非居住者、公的医療保険加入者・非加入者を問わず接種を実施。邦人もこれに準じている。	任意	n/a（任意）	無料	無	ワクチン接種証明書を各自治州の保健当局が発行。基本的にQRコードで運用されるが、紙・PDF形式でも発行可。なお、マドリッド州など一部の自治州では、すでに各人の公的医療カードアプリ上で、①接種、②PCR・抗原検査、③新型コロナウイルス感染症の履歴が表示される仕様。	EU域内ではEUデジタルCOVID証明書の運用を6月7日より水際で試験的導入、7日1日より正式導入予定。域外国との相互運用については、現在EUが調整中。	EUデジタルCovid証明書の試験的導入が始まる6月7日以降、ECDC基準グリーン国以外の加盟国、およびEU域外の「入域制限解除国」以外の国からの入国者について、入国時に欧州医薬品庁またはWHO認可のワクチン接種証明を提示することにより、PCR陰性証明の提示を免除する方針。感染者の多い域外国については、ワクチン接種者に限り、観光・商用目的の短期滞在が解禁となる。（なお、ECDC基準グリーン国に分類される加盟国、およびEU域外の「入域制限解除国」からの入国者については、ワクチン証明、PCR陰性証明のいずれも不要）	ワクチン接種の普及と並行した感染状況の改善に伴い、全国的に営業時間の緩和などが進む。バレアレス州（島嶼部）では5月下旬より、これまで国内観光客の入島時に提示が義務付けられていた陰性証明が、1回でもワクチン接種を受けていれば不要に。		2021年6月7日
スイス	ジュネーブ	2020年12月23日	調達契約の状況は以下のとおり（連邦保健局）。 <承認済み> ①ファイザー・BioNTech（米・独）：600万回分 ②モデルナ（米）：1350万回分（2021年中）+700万回分（2022年） <承認手続き中> ③アストラゼネカ（英）530万回分（開発中、契約済み） ④キュアバック（独）500万回分 ⑤ノババックス（米）600万回分	初回接種：35.5% 接種完了：20.2% (5月30日時点、連邦保健局のデータを基に計算)	国籍限らず、全スイス居住者平等に接種が進んでいる	任意	n/a（任意）	無料	有（既存のワクチン関連損害賠償スキームの範囲内）	6月7日から段階的にワクチン接種証明書（コロナ証明書）の発行を開始、6月末から全国民が利用開始。電子媒体と紙媒体で提供。	EUとの間では、「EUデジタルCOVID証明書」との相互承認に向けて協議中。	詳細未定だが、外国との出入国における利用も想定されている。	政府は「コロナ証明書」を、空港など国際旅客が利用する施設や大規模イベント、ディスコなどでは提示を必須とし、レストランやレジャー施設、病院など日常的に良く使われる場所では提示を必須としない予定。また、職場で提示を求めるとを明確に禁止している。		2021年6月2日
ロシア	モスクワ・サントペテルブルク	1月18日から原則として、希望者全員（18歳未満の者を除く）接種可能となった。第2回目の接種は第1回目の接種から21日後。	ロシア製100%（ロシア製第1のワクチン「スプートニクV」（ガマレヤ研究所）、ロシア製第2のワクチン「エビウ کرونا」（国立ウイルス学・生物工学研究センター）、ロシア製第3のワクチン「コピワク」（チュマコフ連邦免疫生物学製剤研究開発センター）、スプートニクVの第1コンポーネント（初回分ワクチン）のみ接種する「スプートニク・ライト」（2021年5月31日時点）	1回目の接種を終えた人数は1,658万人、2回目を終えた人数は1,193万人（5月31日時点）。出所：Our World in Data	右記に従い、任意で受けた邦人はいるが人数や比率については不明	任意	・公的接種場所では、外国人は長期滞在資格保有者のみとされ、駐在員は対象外（2月17日までは、場所により外国人は誰でも受けられた）。 ・民間クリニックでは上記制限なく外国人が受けられるところがある。	副反応が出た場合には通常の救急搬送処置が行われる。補償については不明。	2021年1月から連邦政府サービスポータルから取得可能。デジタル版もあり。 出所： <a href="https://www.gosuslugi.ru/landi ng/vaccination">https://www.gosuslugi.ru/landi ng/vaccination</a>	5月31日時点で情報なし。	5月31日時点で情報なし。	5月31日時点でワクチン接種者に対する特別な国内活動制限緩和措置はなし。ワクチン接種者に対する特別な国内規制緩和措置について検討する動きに関する報道あり。 出所： <a href="https://iz.ru/1157226/maksim-talavrinov-irina-tyruleva/antitelu-vremia-v-aeropotakh-khotiat-sozdat-koridory-dlia-vaktinirovannykh">https://iz.ru/1157226/maksim-talavrinov-irina-tyruleva/antitelu-vremia-v-aeropotakh-khotiat-sozdat-koridory-dlia-vaktinirovannykh</a>	連邦政府がロシアへの渡航者に対する新型コロナウイルス感染拡大防止を目的としたモバイルアプリ「Travel without COVID-19」を導入。同アプリで最寄りのPCR検査機関の検索や検査結果のQRコード表示が可能になる。今後ロシア入国の際に同アプリのインストールおよびロシア国内での使用が義務付けられるとの見方も出ている。 出所： <a href="https://www.mid.ru/posledniye_dobavleniye/-/asset_publisher/MCZ7HQMdqBY/content/id/4706553">https://www.mid.ru/posledniye_dobavleniye/-/asset_publisher/MCZ7HQMdqBY/content/id/4706553</a> <a href="https://play.google.com/store/apps/details?id=com.nocovid19.su&amp;hl=en_US&amp;gl=US">https://play.google.com/store/apps/details?id=com.nocovid19.su&amp;hl=en_US&amp;gl=US</a> <a href="https://www.vesti.ru/hitech/article/2554505">https://www.vesti.ru/hitech/article/2554505</a>		6月2日

国	報告事務所	一般状況			邦人への接種状況				水際措置に関連する事項					備考	情報 とりまとめ日
		接種開始時期	ワクチンの使用状況（製薬会社別構成比） ※使用状況がなければ調達状況	接種の進捗	邦人の接種状況	邦人への接種は義務か任意か	邦人への接種の場合の対象者	費用 現地通貨 (円)	副反応が出た場合の健康被害救済制度の有無	ワクチン接種証明書発行の状況 (デジタルか否か含む)	他国とのワクチン接種証明書共通化の動き	ワクチン証明を入手/入手後の防疫措置の緩和条件とする動き	ワクチン接種と国内活動制限緩和に関する動き		
米国	ニューヨーク	2020年12月14日	①ファイザー・ビオンテック（米・独）：51.4% ②モデルナ（米）：40.6% ③ジョンソン・エンド・ジョンソン（米）：7.9% ④その他（不明）：0.04% (6月6日時点の使用状況)	・1回接種済：1億7,083万人超（総人口の51.5%、18歳以上の人口の63.5%）。 ・接種完了：1億3,896万人超（総人口の41.9%、18歳以上の人口の52.8%）。 (6月6日時点)	・各州ともワクチン接種について、住民の国籍制限などは設けられていない。4月19日をもって、全米の16歳以上の住民が接種対象となり、邦人も接種可能に。 ・在米の日本公館は、在留邦人に対して、必要に応じて医療機関などに相談の上、各自の責任でワクチン接種について判断するよう呼びかけ。	任意	・政府が定める指針に従って米国居住者すべてが接種可能 ・4月19日をもって、全米の16歳以上の住民が接種対象に。	無料	不明（そのような情報なし）	CDCからワクチン接種完了を証明する「ワクチンカード」が発行される。デジタル形式の証明は発効されない。	共通化の動きなし	緩和の動きなし	政府は連邦レベルでのワクチンパスポートは導入はしないと表明。 ワクチン接種者は以下の活動制限が緩和。 ・ワクチン接種者同士の会合でのマスク着用不要 ・重症化リスクの低いワクチン非接種者との会合でのマスク着用不要 ・国内旅行時の事前・事後検査不要 ・事前検査なしで国際旅行可（ただし、旅行先による） ・国内外旅行後の自主隔離期間不要	最新のワクチン接種状況 <a href="https://covid.cdc.gov/covid-data-tracker/#vaccinations">https://covid.cdc.gov/covid-data-tracker/#vaccinations</a> ワクチン接種開始時期 <a href="https://www.aarp.org/health/conditions-treatments/info-2020/coronavirus-vaccine-distribution.html">https://www.aarp.org/health/conditions-treatments/info-2020/coronavirus-vaccine-distribution.html</a> 副作用の可能性について <a href="https://www.cdc.gov/vaccines/covid-19/info-by-product/clinical-considerations.html?CDC_AA_refVal=https://www.cdc.gov/vaccines/covid-19/info-by-product/pfizer/clinical-considerations.html">https://www.cdc.gov/vaccines/covid-19/info-by-product/clinical-considerations.html?CDC_AA_refVal=https://www.cdc.gov/vaccines/covid-19/info-by-product/pfizer/clinical-considerations.html</a> 法人の接種状況（在米公館） NY総領事館 <a href="https://www.ny.us.emb-japan.go.jp/oshirase/covid19-vaccines.html">https://www.ny.us.emb-japan.go.jp/oshirase/covid19-vaccines.html</a>	6月7日
カナダ	トロント	2020年12月13日の週から	①ファイザー・ビオンテック（米・独）：70.6% ②モデルナ（米）：19.0% ③オックスフォード・アストラゼネカ（英）：7.9% ④ペリディ薬品・インド血清研究所製造のオックスフォード・アストラゼネカ（加・印・英）：2.3% ⑤ヤンセン（ジョンソン&ジョンソン）（ベルギー）：0% ⑥不明：0.2% (5月29日時点)	・1回接種済：2,157万人超（総人口の56.78%、18歳以上の人口の68.33%） ・接種完了：216万人超（総人口の5.71%、18歳以上の人口の7.02%） (6月4日時点)	邦人も接種可能。邦人の接種人数等についてのデータは不明。	任意	・全カナダ在住者が対象。 ・ファイザー・ビオンテック製は12歳以上、それ以外は18歳以上が対象。	無料	・連邦政府は6月1日、副反応に対する補償制度「Vaccine Injury Support Program」の開始を発表。 ・ケベック州で接種を受けた人は、同州の既存制度に申し込む必要がある。	・オンタリオ州：あり（紙のみ） ・ブリティッシュコロンビア州：あり（紙・デジタル） ・マニトバ州：あり（デジタルのみ）	なし	なし	なし		6月7日
ブラジル	サンパウロ	2021年1月17日から	①アストラゼネカ（英）：38.8% ②シノバック（中）：58.5% ③ファイザー（米）・ビオンテック（独）：2.7% ④スプートニクV（露）：6月4日に国家衛生監督庁(ANVISA)が一定の条件付きで例外的に輸入を許可 ⑤コバクシン（印）：6月4日に国家衛生監督庁(ANVISA)が一定の条件付きで例外的に輸入を許可 ⑥ヤンセンファーマ（白・米）のワクチンに対する緊急使用が3月31日に国家衛生監督庁（ANVISA）に承認。	23.01%（6月5日/全国、1回でも接種を受けた割合）	民間企業でワクチンを購入し大規模に接種している事例は未確認。在留邦人への帰国後予防接種の実現を期待する声もあり、様子見を行っている企業が多い。60歳以上の日本人駐在員でアストラゼネカ（1回目）を接種した事例を複数確認済み。	任意	明確な規定なし	無料	健康被害救済制度は無いが、連邦政府、州政府、市政府がワクチンを購入した場合に賠償責任は連邦政府、州政府、市政府とする項目を契約書に記入できている。	公的病院SUSの新型コロナ関連情報受信アプリ「Connect SUS」を通じてデジタルのワクチン証明書の使用が可能。4月6日に観光省、保健省の両大臣がパートナーシップ協定に署名し、安全な観光に向けたツールにすることで一致している。	現時点では無い	現時点では無い	現時点では無い	・ワクチン使用状況の出所：保健省ウェブサイト ・接種進捗の出所：現地グローバル紙系ウェブサイト「G1」	6月5日
メキシコ	メキシコ	2020年12月24日から	(6月3日メキシコ到着基準) ①ファイザー・Biontech：38.0% ②アストラゼネカ：26.4% ③シノバック：18.9% ④スプートニクV：5.7% ⑤カンシノ：11.0%	総人口比：18.4%（6月3日時点/全国、1回でも接種を受けた人数） (18歳以上の人口比では、26%)	5月3日以降、60歳以上の高齢者に加え、50～59歳の年齢層に対してもワクチン接種が始まり、該当する日本人駐在員が複数名ワクチンを接種済み。	任意	住民登録単一番号（CURP）の所持者（駐在員・家族など居住者）	無料	どの程度の補償があるかは分からないが、副反応のフォロー体制があり、5月22日までに1万9,095件（接種総数に占める比率は0.07%）が報告されている。	1回目、2回目とも接種証明が出されるが、紙媒体のみ。	無し。	新型コロナに関連した入国制限は陸路国境を除き、現時点でも一切ないため、緩和する必要がない。	現時点ではない。	ワクチン使用状況の出所：保健省記者会見	6月4日
チリ	サンティアゴ	2020年12月24日	使用状況（6月4日時点） ①Pfizer-BioNTech：18.6%（3,586,182回） ②Sinovac：79.2%（15,257,962回） ③Astra Zeneca：1.9%（360,702回） ④Cansino：0.3%（69,717回） ※④のみ、接種回数が1回	(6月4日時点) 人口1946万人に対し、 ①1/2回目の接種完了人数：10,986,923人（56%） ②2/2回目の接種完了人数：8,217,923人（42%） ③1/1回目の接種完了人数：69,717人（0.4%）	特定の疾病を抱えた高リスク者や、高齢者から順に接種が始まっている。複数の対象年齢の邦人より、接種報告を受けている。6月第1週には23～25歳を対象に任意によるワクチン接種が可能。	任意	観光ビザによる一時滞在者、妊婦や小児を除く全邦人。	無料	現時点まで確認されていない。	ワクチン接種時に受領する紙媒体の証明書とは別で、5月26日からデジタル対応の「特別移動許可証（Pase de Movilidad）」の発行を開始。ワクチン接種完了者に対し、一部の外出制限を緩和する効果を持つ。	現時点まで確認されていない。	現時点まで確認されていない。	現時点まで確認されていない。		6月4日
ペルー	リマ	2021年2月9日	6,120万個のワクチン契約済み。その内761万320回分が調達済み。 ①シノファーム（中国）：170万回分到着済み(200万回分購入契約済み)。 ②ファイザー（米）：453万8,120回分到着済み（3,200万回分購入契約済み）。別途コバックスファシリティー経由で58万5,000回分到着済み。 ③アストラゼネカ（英）：1,400万回分契約済み（2021年9月到着予定）。コバックスファシリティー経由で78万7,200回分到着済み。 ④コバックスファシリティー経由：1,320万回分契約済み。	(6月3日時点) 全国ワクチン接種計画実施中。当初は1～3段階に分けていたが、現在は段階でなく年齢別に政府がその都度発表して実施中。 1回目接種：296万2,646人完了 2回目接種：129万8,532人完了 対象者：医療従事者、軍人、警察、高齢者（60代以上実施中）、特別疾患患者（ダウン症、透析患者など）。	在留外国人への接種案内は入国管理局を通じて行われる予定。外交団や国際機関については、ペルー外務省が別途接種スケジュールを検討中（各国大使館を通じて調査中）。	任意	在留資格保持者全員	無料	有り：法定最低賃金（RMV）930ソルをベースに算出される。	現時点ではない。	現時点ではない。	現時点ではない。	現時点ではない。		6月3日

国	報告事務所	一般状況			邦人への接種状況				水際措置に関連する事項				備考	情報 とりまとめ日	
		接種開始時期	ワクチンの使用状況（製薬会社別構成比） ※使用状況がなければ調達状況	接種の進捗	邦人の接種状況	邦人への接種は義務か任意か	邦人への接種の場合の対象者	費用 現地通貨 （円）	副反応が出た場合の健康被害救済制度の有無	ワクチン接種証明書発行の状況 （デジタルか否か含む）	他国とのワクチン接種証明書共通化の動き	ワクチン証明を入手／入手後の防疫措置の緩和条件とする動き			ワクチン接種と国内活動制限緩和に関する動き
アラブ首長国連邦	ドバイ	1回目：12月11日 2回目：1回目の3週間後 3回目：6月中旬以降 ※シノファーム	【連邦全体で承認・使用】 ①シノファーム（中）：100% ②スプートニク（露）：緊急使用のみ 【ドバイのみで承認・使用】 ①ファイザー（米）：過半数（12/23接種開始） ②アストラゼネカ（英）：少数（2月初旬接種開始） ③モデルナ（米）：使用報道なし	人口100人あたり119.53回（5/20時点）	自己判断で接種している日本人在住者は一定数いるが、正確な人数は不明。「様子見」としている日本人がマジョリティ。 ドバイにおいては、2月下旬よりファイザー製ワクチンの接種が本格再開され、接種に踏み切る人が増えており、3/2より接種対象者が（60歳以上から）40歳以上へと拡大されたことから、今後も接種者は増えると思われる。	任意	【連邦】 国民または居住者で、60歳以上または既往症保有者、フロントラインワーカー  【ドバイ】 国民または居住者で、40歳以上または既往症保有者、フロントラインワーカー	無料	政府にて無料で処置する。	情報なし	エミレーツ航空は4月15日より、「IATAトラベルパス」の試験運用を開始。	情報なし	6月6日より、UAE国内で開催されるイベントの参加者は、アプリを通じてワクチン接種の完了証明と48時間以内に実施したPCR検査の陰性証明の提示が必須（国際展示会等、一部対象外）。		6月3日
トルコ	イスタンブール	2021年1月14日	シノバック ファイザー・ピオンテック	5月31日午前の時点で、2,884万2,585人がワクチンを接種。うち1本目のみの接種者数は1,651万7,629人、2本目が1,232万4,956人	任意	現在、トルコ政府により医療従事者や年齢順などに接種優先順位が決められており、当事務所スタッフはNSを含め全優先順位は最下位となっている。外国人への接種は在留許可保持者は対象となる。	無料	不明	情報なし	ターキッシュ エアラインズは、国際航空運送協会（IATA）のトラベルパスを通じたデジタル健康ウォレット・アプリ（旅程、PCR検査証明、ワクチン接種証明書などの情報を統合・管理するアプリ）の試用を開始	情報なし	情報なし		6月3日	
サウジアラビア	リヤド	2020年12月中旬から対象フェーズに分けて、順次接種開始	①ファイザー・ピオンテック社製（要2回接種） ②アストラゼネカ製（同2回） ③モデルナ（同2回） ④ジョンソン・エンド・ジョンソン（同1回）	保健省は、5月29日時点のワクチンの接種回数は延べ1,379万回で、国民の約40%が少なくとも1回目の接種をしたと発表。	任意	個人判断で接種が行われている様子。総じて支店長クラスの年齢の高い層は接種が進んでいる。	無料	報道では、「副反応の事例の報告なし」とのことで、政府からは副反応の処置の対応ぶり（有償、無償）につき、特に発表なし	情報なし	サウジアラビア航空が4月19日より、「IATAトラベルパス」の試験運用を開始	5月20日以降、入国禁止国以外の国からの入国者に対して、指定施設における隔離の義務化を発表。ただし、空路入国者のうち、サウジ人及びサウジ人の配偶者、外交官（家族含む）、医療関係者などは感染後の回復）が必須条件になると発表。この「免疫獲得」とは、政府指定のアプリ「Tawakkalna」にその旨表示されていること。		6月3日		
イスラエル	テルアビブ	1回目：12月19日～ 2回目：1回目の3週間後～	ファイザー100%	保健省の発表によると、5月29日時点のワクチン接種者数は1回目544万9,678人、2回目512万8,719人で、合計1,057万8,397人。2回目の接種まで終えた数が500万人を超えた。	任意	・外交団（大使館、JICA関係者）：イスラエル政府の各国外交団への配慮の一環として接種機会を提供 ・HMOに加入する邦人：HMOのシステムの中で一般のイスラエル人と同様に接種可能 ・HMOに加入しない邦人：当初接種機会がなかったが、テルアビブ市およびイチョフ病院の施策により、無保険である外国人（主にアフリカ等からの難民申請者を想定）に対しても接種を開始したことにより、HMO未加入の邦人も接種可能となった。	無料	不明	ワクチン接種者に、6カ月間有効の「グリーン・パス」を発行（紙・デジタル）	情報なし	外国からの団体旅行客の受け入れを、ワクチン接種や到着時のPCRテスト等の一定の制限とともに5月23日から開始。対象は14カ国（アイスランド、アイルランド、イタリア、オーストラリア、シンガポール、デンマーク、ドイツ、ニュージーランド、フランス、ポルトガル、マルタ、英国、米国、香港）。	イスラエル政府は6月1日より、新型コロナウイルスに関する国内の各種規制を全て解除すると発表。これにより、施設への入場時のグリーンパス（ワクチン接種証明書）の提示や、職場における収容人数制限などがなくなる。		6月3日	
南アフリカ共和国	ヨハネスブルグ	2月17日	①ジョンソン・エンド・ジョンソン（米）3,000万回分確保（2月17日～接種に使用。医療従事者向けの接種は5月14日で一旦終了） ②ファイザー（米）3,000万回分（1,500万人分）確保（上記①終了後の医療従事者、5月17日からのフェーズ2に使用） ③COVAXファシリティ1,200万回分予定	フェーズ1（医療従事者）、フェーズ2（60歳以上）の約135万人が接種（6月7日時点）。	任意、公式サイトでの登録者のみ。	60歳以上の在留邦人が1回目の接種を実施したとの情報共有。	無料	情報なし	情報なし	情報なし	情報なし	情報なし		6月7日	